

戸隠連峰・高妻山 (2353m)



期 日 2015年10月15日～17日

参 加 石川誠 佳子

行 程

10/15日 横須賀700発—環八—関越道・藤岡jc—上信越道經由長野入り飯縄高原宿舎 15:00

10/16日 宿舎 5:30-6:00 戸隠牧場駐車場 6:30-7:00 登山口 7:30-滝鎖場 8:00—一杯清水
8:25—不動避難小屋 8:45 着—10:00 五地藏—12:30 高妻山頂上 13:00 発—
九勢至 14:00 着—15:00 六弥勒 15:15—弥勒尾根下山—戸隠牧場 17:00 着—17:30
駐車場—宿舎 18:00 着

10/17日 宿舎 9:00—戸隠神社奥社参詣、鏡池周回し、奥社駐車場 12:00 発—往路帰横
19:00 自宅着



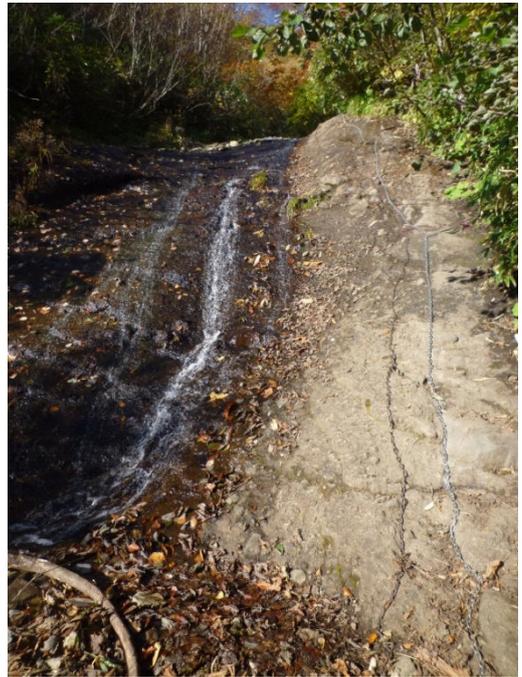
高妻山案内図



戸隠牧場の秋模様



牧場からの戸隠岳



滑滝



鎖を頼りに



一不動の避難小屋



滑りやすい帯岩をトラバース



頂上南側にある十阿弥陀



新雪の白馬三山



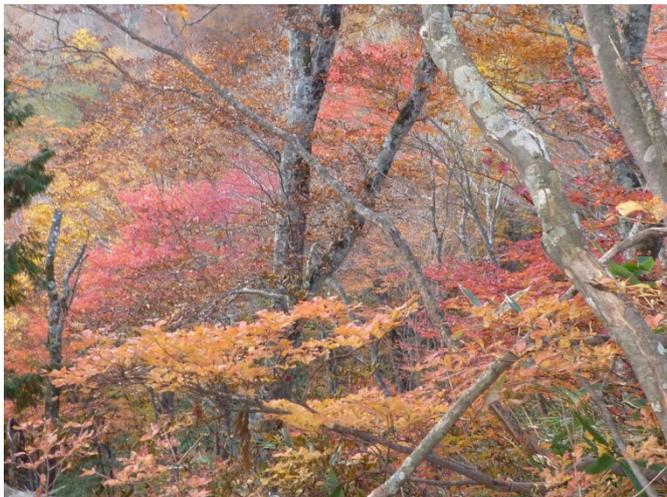
やっと着いた高妻山頂上



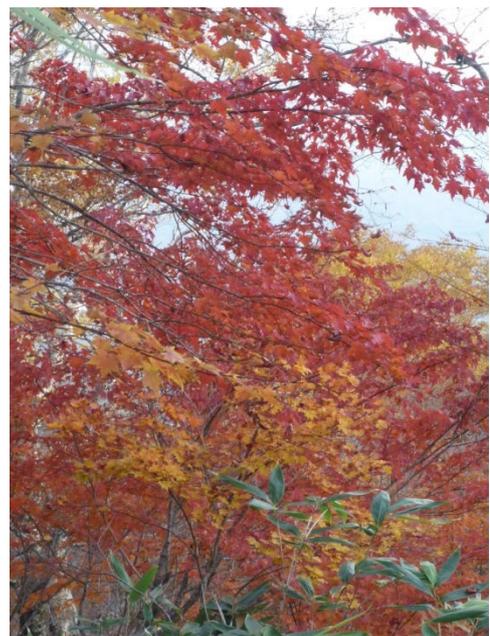
頸城山塊・雨飾山



戸隠連山



紅葉真っ盛り



カエデの赤ヤブナの黄色が美しい



戸隠神社奥社杉並木



奥社から見る戸隠山



紅葉真っ盛り



鋸状の戸隠山の峰々



鏡池から見る戸隠の山並み

登山を終えて

戸隠登山口駐車場に着いたのが午前6時、7.8台の車が止まっていたが、人の気配はない。既に出発した様で、朝の冷気の中を戸隠牧場の登山口に向かう。

戸隠の山々は朝日を浴びて紅葉が一段と輝き、牛たちも朝もやの中で草を食んでいる。登山標識に導かれ樹林帯の中を進んでゆくと小さな沢の流れを石伝いに左岸に渡る。

渡渉を繰り返しながら進んでゆくと鎖が取り付けられた滑瀧にたどり着く。高さ20m位だろうか。

水流沿いの小さなスタンスを頼りに登って行く。そして草付の中を暫らく登ると帯岩というトラバースルートが出てきて、枯れ草に注意しながら、チョットした岩のでっぱりを慎重に乗り越す、此处で滑ったら小さな怪我では済まないだろう。その上に一杯清水という冷たい水場があった。

此处からしばらく登ると一不動の避難小屋があった。峠から左に行くと戸隠連山、右への道を辿る。

修験道の道でもあり、二釈迦、三文殊、四普賢、五地藏へと登山道を進んでゆく。

五地藏から登山道は左に折れて高妻山へと続いている。途中から遥か上の方にその姿が聳えている。

頂上直下はかなり急登が予想される。上り下りを繰り返す、六弥勒、七薬師、八観音、九勢至の祠を確認しながら直下の急登を笹や木の枝を掴みながら小さな岩場を越えて行くと十阿弥陀がある、山頂に辿りつく三角点は北の端にあり、此处からの展望は360度素晴らしかった。

戸隠山、黒姫山、頸城山城の妙高山、火打山、焼山に続いて遠く雨飾山が見て取れる。

遠くに北アの白馬三山の山々が新雪に輝いていた。

昼食を摂りながら、周囲の山々を目に焼き付けて元来た道を下ってゆく、六弥勒の頭から新しく開かれたという弥勒尾根を下ってゆく。下り始めはかなり急な道のりであるが枯れ草や、ぬかるみに気を付けながら下ってゆく樹林帯に入ると素晴らしい紅葉のトンネルの中を下り、カエデやブナの木の本木々が黄色や赤に彩られ紅葉真っ盛りであり、感嘆の声が自然に出てくる。

登山口に着いたのは六弥勒の分岐から下って2時間程、秋の陽はつるべ落としのたとえに有るように既に暮れかかっていた。そこから暗くなった道を駐車場へと戻り1日の登山を終える。

牧場で飲んだコーラが喉にしみわたり、ホット一息ついた。

山頂近くであった70歳代の単独行の2人の男性は、一人は岡山県、もう一人は福島県白河から車で寝泊まりしながら、新潟、長野の百名山を渡り歩いていると、その元気の良さに励まされる。

記 石川 誠

※ 初日善光寺によってご朱印を戴いたところ丁度【横綱土俵入り】が行われていました。

平成27年10月15日、善光寺本堂前にて、横綱土俵入りが行われました。

昨今、自然災害が頻発した長野県の県民に勇気と希望をもたらす為に、古来より「大地を踏んで地の邪気を払い鎮め正気を招き寄せる」との意味のある横綱土俵入りを、善光寺境内にて実施されました。参道には土俵入りを一目見ようと、およそ3,100人もの参拝者が詰めかけ、声援がおくられました。(善光寺 hp 抜粋)

